



平成27年 3月31日

薩摩川内市議会

議長 上野 一誠 様

（会派代表者経由）

会派の名称 会派に属さない議員

経理責任者氏名 井上 勝博



政務活動費に係る収支報告書

薩摩川内市議会政務活動費の交付に関する条例第8条の規定により、次のとおり、平成26年度政務活動費に係る収支報告書を提出します。

1 収入

政務活動費 180,000 円

2 支出

（単位：円）

科 目	金 額	備 考
調 査 研 究 費	126,265円	4/28東京都・9/13東京都・ 11/24～25東京都
研 修 費	36,800円	4/12～13東京都
資 料 作 成 費		
資 料 購 入 費	33,560円	社会新報、農民、書籍等
広 報 費		
広 聴 費		
要請・陳情活動費		
会 議 費		
人 件 費		
事 務 費		
合 計	196,625円	

3 残余の額

0 円

注1 備考欄には、主たる支出の内訳を記載すること。

2 領収書、活動報告書その他必要な書類を添付すること。

3 会派に属さない議員の場合は、「会派代表者経由」の必要はないこと。

4 会派に属さない議員の場合は、「会派の名称」は記入しないこと。

5 会派に属さない議員の場合は、「経理責任者氏名」とあるのは「議員の氏名」と読み替えること。

平成27年3月31日

薩摩川内市議会
議長 上野 一誠 様

会派の名称 会派に属さない議員
代表者名 井上 勝博



活動報告書

1 調査研究事業

【1回目】

- (1) 視察年月日
平成26年4月28日（月） 1日間
- (2) 視察地及び視察項目
東京都 原子力規制庁・経済産業省
「エネルギー基本計画」、原発輸出、規制基準審査について、原子力規制庁、経済産業省を訪問、聞き取り調査
- (3) 視察参加者
井上 勝博

【2回目】

- (1) 視察年月日
平成26年9月13日（土） 1日間
- (2) 視察地及び視察項目
東京都内 家電会館
原発をなくす全国連絡会 講演と基調報告、討論
- (3) 視察参加者
井上 勝博

【3回目】

- (1) 視察年月日
平成26年11月24日（月）～11月25日（火） 1泊2日
- (2) 視察地及び視察項目
東京都中央区 東京電力本社・電気事業連合会・原子力規制委員会
川内原発再稼働にかかわる調査・意見交換
- (3) 視察参加者
井上 勝博

2 研修事業

(1) 研修年月日

平成26年4月12日(土)～4月13日(日) 1泊2日

(2) 視察地及び視察項目

東京都新宿区

「浜岡原発の地盤の安全性を検証する」学習会で原発の耐震設計の問題点を学習する。

(3) 視察参加者

井上 勝博 議員

3 広報事業

4 広聴事業

5 要請・陳情活動事業

6 その他活動

政務調査視察報告書(研修)

平成27年3月31日

厚岸川内市議会

議長 上野一誠 殿

会派名 会派に所属しない議員

代表者名 井上 勝博



政務調査費による視察を実施したので、次のとおり報告します。

1 視察年月日

平成26年4月12日(土)～平成26年4月13日(日) 2日間

2 視察参加者

井上 勝博

3 視 察 先

東京都新宿区

4 視 察 目 的

「浜岡原発の地盤の安全性を検証する」学習会で原発の耐震設計の問題点を把握する。

5 視 察 の 概 要

浜岡原発の耐震安全性に関わって調査し、発信してこられた越路南行さんの著書「浜岡原子力発電所の地盤の安全性を検証する」を著者自身が解説。断層自体は認めないが、念のためと称して、長く評価された断層を想定し計算。それでも問題ないという電力事業者の論法とそれへの批判を学ぶ。

6 所 感

人類は、米スリーマイル島原発事故(1979年)、旧ソ連チェルノブイリ事故(1986年)、福島第一原発事故(2011年)と半世紀の間に3回も原発の重大事故を起こしてしまった。原発事故は、航空機事故や他の産業事故とは明らかに異質であり、一歩間違えると国の存亡も左右しかねない。技術者は、原発が事故を起こした場合の社会的影響や放射性廃棄物をどう処理するかなど高い倫理観をもって仕事にあたるなければならないのに実際には違ふ。学習会は浜岡原発の例から「エンジニアリングジャッジ(工学的判断)」「割り切り」の手法でいかに手抜きがなされていないかを学習した。原発を早く運転にまかせたい。

政務調査視察報告書

平成 27 年 3 月 31 日

愛媛川内市議会

議長 上野一誠 殿

会派名 会派に所属しない議員

代表者名 井上 勝博



政務調査費による視察を実施したので、次のとおり報告します。

1 視察年月日

平成 26 年 4 月 28 日 (月) ~ 平成 26 年 4 月 28 日 (月) 1 日間

2 視察参加者

井上勝博

3 視察先

東京都

4 視察目的

「エネルギー基本計画」、原発輸出、規制基準審査について原子力規制庁、経済産業省を訪問、聞き取り調査

5 視察の概要

全労連、全日本民主医療機関連合会、新日本婦人の会などをつくる原発をなくす全国連絡会は、原子力規制庁と経済産業省に「エネルギー基本計画」の撤回、原発輸出をやめること、再稼働前提の新規制基準の適合性審査をやめるようにも求める申し入れをおこなった。

6 所感

規制庁が「(活断層などの) 大きな論点がないので川内原発の適合性審査がすすんでいる」と発言した。立石雅昭新潟大学名誉教授の立会いのもとで、「比較的あたらしい」断層が、川内原発の炉心から東 800 メートルのところに見えたり、政府の地震調査研究推進本部が九州電力の活断層調査について疑義を抱いている問題などがあり、大きな論点になっている。さらに全国の原発の中で川内原発は火山学者から「立地不適」と指摘されるなど火山爆発による原発事故の可能性も浮上してきた。規制庁はこれらの指摘を無視している。同時に規制庁は「基準に適合したからと事故がおこらないとは言えない」と述べた。事故の可能性があるのでなら原発再稼働を断念すべきである。

政務調査視察報告書

平成 27 年 3 月 31 日

長野川内市議会
議長 上野一誠 殿

会派名 会派に所属しない議員

代表者名 井上 勝博



政務調査費による視察を実施したので、次のとおり報告します。

1 視察年月日

平成 26 年 9 月 13 日（土）～平成 26 年 9 月 13 日（土） 1 日間

2 視察参加者

井上勝博

3 視察先

東京都内 家電会館

4 視察目的

大飯原発の運転を差し止めた福井地裁判決について研修と全国の反原発運動の経験交流。

5 視察の概要

原発をなくす全国連絡会は、原発をなくす運動の発展をめざす第 4 回全国交流会を開いた。大飯原発の運転を差し止めた福井地裁判決について井戸謙一弁護士が記念講演を行った。井戸氏は金沢地裁時代に志賀原発差止め判決を出した裁判長として知られる。全国連絡会運営委員会を代表して長瀬文雄・全日本民医連副会長が基調報告を行い、国会報告、特別報告、討論が行われた。

6 所 感

福井地裁の大飯原発差止め判決の画期的な意義と司法の世界での原発に対する認識の変化などを学んだ。福島第一原発事故が実際に起こり、原発に反対する全国民の運動これまで政府や電力会社よりだった司法を動かしていることに確信をもって運動にあたる大切さを学ぶ。また基調報告では、①福島との連帯を強め、再稼働を許さない創造的で継続的な運動を築く②各地の行動と連帯し、草の根の運動を支える③共同をさらに強める④学習活動を強め世論を動かすなどの提起があった。私は川内原発再稼働をめぐる市民の意識の変化や運動を参加者に紹介する発言をおこない交流する中で、あらためて原発反対の国民的運動の力強さを実感した。

政務調査視察報告書

平成 27 年 3 月 31 日

原野川内市議会

議長 上野一誠 殿

会派名 会派に所属しない議員

代表者名 井上 勝博



政務調査費による視察を実施したので、次のとおり報告します。

1 視察年月日

平成 26 年 11 月 24 日（月）～平成 26 年 11 月 25 日（火） 2 日間

2 視察参加者

井上 勝博

3 視察先

東京都中央区、東京電力本社、電気事業連合会、原子力規制委員会

4 視察目的

川内原発再稼働問題に係わる調査・意見交換

5 視察の概要

原発問題住民運動連絡センターの総会では、野口邦和日本科学者会議原発問題研究委員会委員長の来賓あいさつ、清水滯公害地球環境問題懇談会事務局長のあいさつ、伊東達也筆頭代表委員の報告、討議があった。翌日には東京電力本社、電気事業連合会、原子力規制委員会を訪問、申し入れをおこなった。

6 所 感 務働

総会は川内原発再稼働について規制委員会の適合性審査の問題点を洗い出した。川内原発では、西南日本から琉球にかけての地域を震源とする、南海トラフと琉球トラフが連動する超巨大地震について想定されていないこと、鹿児島地溝に沿って加久藤・小林カルデラ、始良カルデラ、阿多カルデラ、鬼界カルデラが連なっている。規制委が一連のカルデラ型噴火に対して「運用期間中における・・・噴火の可能性は十分低い」と反論していることに対して、日本火山学会は、巨大噴火は予知できないというのが火山学の到達点としている。また避難計画も実効性がない。このような問題点をクリアできないうちに再稼働をさせてはならないと強く思った。